【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-528333(P2005-528333A)
【公表日】平成17年9月22日(2005.9.22)
【年通号数】公開・登録公報2005-037
【出願番号】特願2003-552220(P2003-552220)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/353　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/19　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/30　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/49　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/60　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/67　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/96　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 8/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　 5/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/07　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/121　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/352　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/355　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/375　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/381　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/593　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7048　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　36/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 3/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　39/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/353
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｂ
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｃ
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｄ
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｆ
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｈ
Ａ６１Ｋ　 7/00　Ｋ

Ａ６１Ｋ	7/00	Ｗ
Ａ６１Ｋ	7/06	
Ａ６１Ｋ	7/48	
Ａ６１Ｋ	7/50	
Ａ６１Ｋ	31/07	
Ａ６１Ｋ	31/121	
Ａ６１Ｋ	31/352	
Ａ６１Ｋ	31/355	
Ａ６１Ｋ	31/375	
Ａ６１Ｋ	31/381	
Ａ６１Ｋ	31/593	
Ａ６１Ｋ	31/7048	
Ａ６１Ｋ	35/78	Ｗ
Ａ６１Ｋ	45/00	
Ａ６１Ｐ	3/02	１０２
Ａ６１Ｐ	3/02	１０７
Ａ６１Ｐ	9/00	
Ａ６１Ｐ	17/02	
Ａ６１Ｐ	17/14	
Ａ６１Ｐ	17/16	
Ａ６１Ｐ	25/02	１０１
Ａ６１Ｐ	29/00	
Ａ６１Ｐ	39/00	
Ａ６１Ｐ	39/06	
Ａ６１Ｐ	43/00	１０５
Ａ６１Ｋ	37/02	
Ａ６１Ｋ	37/50	

【手続補正書】
【提出日】平成17年11月7日(2005.11.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
放射線障害を軽減または治療するための経口組成物であって、
経口投与された場合、細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制するのに効果のある１若しくはそれ以上の一定量の化合物と、
効果的な量の１若しくはそれ以上の抗酸化物質であって、前記抗酸化物質はα－リポ酸およびクロロフィリンから選択された少なくとも１つの化合物を有する、前記抗酸化物質と、
ケルセチンおよびルチンから選択された少なくとも１つのフラボノイドと、
経口組成物用の薬学的に許容される少なく１つの担体と
を有する経口組成物。
【請求項２】
請求項１の組成物において、
細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制する前記１若しくはそれ以上の化合物は、ビタミンD_3と、１（Ｓ），３（Ｒ）－ジヒドロキシ－２０（Ｒ）－（１－エト

キシ－５－エチル－５－ヒドロキシ－２－ヘプチン－１－イル）－９，１０－セコ－プレグナ－５（ｚ），７（Ｅ），１０（１９）－トリエンと、体内でビタミンＤ$_3$に変換または代謝される化合物と、それらの代謝産物と、それらの薬学的に許容される塩とから選択されるものである。

【請求項３】

請求項１の組成物において、

細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制する前記１若しくはそれ以上の化合物は、コレステロールと、７－デヒドロコレステロールと、ビタミンＤ$_3$と、１，２５－ジヒドロキシビタミンＤ$_3$と、１（Ｓ），３（Ｒ）－ジヒドロキシ－２０（Ｒ）－（１－エトキシ－５－エチル－５－ヒドロキシ－２－ヘプチン－１－イル）－９，１０－セコ－プレグナ－５（ｚ），７（Ｅ），１０（１９）－トリエンと、２５－ヒドロキシコレカルシフェロールと、カルシトリオールと、それらの薬学的に許容される塩とから選択されるものである。

【請求項４】

請求項１の組成物において、

前記１若しくはそれ以上の抗酸化物質は、アスコルビン酸と、デヒドロアスコルビン酸と、アスコルビン酸エステルと、エスター－Ｃ（登録商標）と、ビタミンＡと、ビタミンＡのエステルと、ビタミンＥと、ビタミンＥのエステルと、カロチノイドと、コエンザイムＱ１０と、グルタチオンと、緑茶ポリフェノールと、アルドン酸と、アルドノラクトンと、アルドノラクチドと、このような抗酸化物質それぞれの薬学的に許容される塩と、スーパーオキシドジスムターゼガタラーゼと、グルタチオンペルオキシダーゼと、メチオニンレダクターゼとから選択される１若しくはそれ以上の抗酸化物質をさらに有するものである。

【請求項５】

請求項１の組成物において、

前記１若しくはそれ以上の抗酸化物質は、グルタチオンと、ガランジンと、ルチンと、ルテオリンと、モリンと、フィセチンと、シリマリンと、アピゲニンと、ギンコライドと、ヘスペリチンと、シアニジンと、シトリンと、クルクミンと、それらの薬学的に許容される塩とから選択される１若しくはそれ以上の抗酸化物質をさらに有するものである。

【請求項６】

請求項１の組成物において、

細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制する前記化合物はビタミンＤ$_3$を有し、前記抗酸化物質はα－リポ酸およびクロロフィリンを有するものである。

【請求項７】

請求項１の組成物において、

前記抗酸化物質は、スーパーオキシドジスムターゼガタラーゼと、グルタチオンペルオキシダーゼと、メチオニンレダクターゼとから選択される１若しくはそれ以上の抗酸化物質を有するものである。

【請求項８】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、以下の：１，２，３，６－テトラ－ｏ－ギャロル－β－ｄ－グルコース;２’ｏ－アセチルアセトシド；３，３’，４－トリ－ｏ－メチルエラグ酸；６，３’，４’－トリヒドロキシ－５，７，８－トリメトキシフラボン;６－ヒドロキシ－ルテオリン;６－ヒドロキシケンフェロール－３，６－ジメチルエーテル;７－ｏ－アセチル－８－エピ－ロガニン酸;アカセチン;アセトシド；アセチルトリサルフェートケルセチン;アメントフラボン；アピゲニン；アピイン；アストラガリン；アビクラリン；アキシラリン；バイカレン；ブラジリン；ブレビフォリン；カルボン酸;カリオフィレン;クリシン－５，７－ジヒドロキシフラボン;クリソエリオール；クリソスプレノール；クリソスプレノシド－ａ;クリソスプレノシド－ｄ；コスモシイン;δ－カジネン;ジメチルムッサエノシド；ジアセリルサーシマリチン；ジオスメチン；ドスメチン；エラグ酸；エビニン；エチル

ブレビフォリンカルボキシレート；フラボカンニビシド；フラボサチバシド；ゲニスチン；ゴシペチン－８－グルコシド;ヘマトキシン;ヘスペルジン；ヒスピデュロシド；ハイペリン;インドール；イリジン；イソリクイレチゲニン；イソリクイリチン；イソクエルチトリン；ジオノシド；ジュグラニン；ケンフェロール－３－ラムノシド;ケンフェロール－３－ネオヘスペリドシド;コラビロン;リクラシド;リナリイン;リナリン;ロニセリン；ルテオリン；ルテオリン－７－グルコシド；ルテオリン－７－グルコロニド；マクロカルパル－ａ;マクロカルパル－ｂ;マクロカルパル－ｄ;マクロカルパル－ｇ;マニフラボン;メチルスクテラレイン;ナリンゲニン；ナリンジン；ネルモボシド；ネペチン；ネペトリン；ネロリドール；オキシアヤニン－Ａ；ペクトリナリゲニン；ペクトリナリン；ケルセタゲチン；ケルセチン；クエルシメルトリン；クエルシトリン;クエルシトリル－２"アセテート；レイノウトリン；ラムネチン;ロイフォリン；ルチン；スクテラレイン；シデリトフラボン;ソフォリコシド;ソルバリン；スピレオシド；トリフォリン；ビテキシン；オウゴニン；から選択される少なくとも１つの追加の化合物をさらに有するものである。

【請求項９】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、ケルセチンと、ミリセチンと、ケンフェロールと、ミリセトリンとから選択される追加の化合物を有するものである。

【請求項１０】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、セレンをさらに有するものである。

【請求項１１】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、有機ゲルマニウムと、高麗人参と、高麗人参のエキスと、アメリカ人参と、アメリカ人参のエキスと、シベリア人参と、シベリア人参のエキスとから選択される１若しくはそれ以上の成分をさらに有するものである。

【請求項１２】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、ビタミンＢ群から選択される１若しくはそれ以上の成分をさらに有するものである。

【請求項１３】

請求項１の組成物において、

前記組成物は、錠剤か、カプセルか、トローチ剤か、ハードキャンディー（飴玉）か、粉剤か、スプレー剤か、エリキシル剤か、シロップ剤か、懸濁剤か、液剤か、うがい薬か、スプレー剤か、液体か、ソフトキャンディーか、ガムか、ドロップか、液体入りキャンディーか、チューインガム基礎剤か、練り歯磨きか、鼻エアロゾルか、吸入剤かから選択される形態である。

【請求項１４】

請求項１の組成物において、

前記抗酸化物質の量に対する細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制する化合物の量の比率は、抗酸化物質１グラム毎に２００ＩＵから抗酸化物質１グラム毎に３，０００，０００ＩＵである。

【請求項１５】

請求項１の組成物において、

前記抗酸化物質の量に対する細胞分化および細胞増殖のうち少なくとも１つを抑制する化合物の量の比率は、抗酸化物質１グラム毎に１８００ＩＵから抗酸化物質１グラム毎に１，０００，０００ＩＵである。

【請求項１６】

請求項１４の組成物において、

前記フラボノイドの量は、前記組成物のキログラム毎に０．９１～４５．４５グラムである。

【請求項１７】
請求項１５の組成物において、
前記フラボノイドの量は、前記組成物のキログラム毎に０．９１～４５．４５グラムである。
【請求項１８】
請求項１５の組成物において、
前記フラボノイドの量は、前記組成物のキログラム毎に４．５４～２２．７３グラムである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
あるいは、組成物１ポンド毎に約２から約１００グラム（キログラム毎に約０．９１から約４５．４５グラム）の量のフラボノイドを使用することが望ましい。それよりもさらに、組成１ポンド毎に約１０から約５０グラム（キログラム毎に約４．５４～２２．７３グラム）の量を使用することが望ましい。できれば組成１ポンド毎に約１５から約４０グラム（キログラム毎に約６．８２から約１８．１８グラム）の量が最適である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
理想的な含量は、１ポンド毎に約１０ｇ（約４．５４ｇ／ｋｇ）のケルセチンを使用する。もう１つの理想の含量は、これに１ポンド毎に約５ｇから約２５ｇ（約２．２７ｇ／ｋｇから約１１．３６ｇ／ｋｇ）のルチンを加える。さらにもっと望ましいのは、１ポンド毎に約５ｇ（４．５４ｇ／ｋｇ）のルチンを組成に付加することである。